

(4) 今後の展開

1) CPCを利用した血液・血管の再生研究（サービス型事業）

本事業で得られた成果の事業化モデルとして、臨床試験・治験を行う企業や大学にCPCをレンタルし、ハード・ソフト両面でサポートを行うビジネスモデルを検討している。新たな支援事業を展開する方針である。

今後は、財団法人先端医療振興財団内に設置しているクラスター推進センターが引き継ぐ形をとり、知的クラスター創生事業との連続性を保ったモデルができることになる。薬事法の規制問題をどのように解決するかが今後の重要課題となるが、先端医療開発のためには厚生労働省との緊密な連携が必要なことを認識し、神戸臨床研究情報センターと臨床試験支援事業の連携も行う予定である。

2) ES細胞からの内胚葉系細胞の分化誘導技術の確立（開発型事業）

糖尿病の再生治療実現化を目標としている本テーマでは、動物の血清を使うことなく肝臓の細胞を作るような技術が開発される等、研究成果が確実に出てきており、共同研究を行っているステムセルサイエンス株式会社と大阪大学で本研究を継続することとなった。

その為、知的財産の管理を適正に行うことが大切と考え、クラスター推進センターの知財管理部署と連携を行う。

3) 新規血管構成細胞分化誘導因子を用いた血管再生療法の開発（蓄積型事業）

DNAマイクロアレイデータベース事業として、神戸理化学研究所が中心となっている再生医療の実現化プロジェクト（リーディングプロジェクト）で引き継ぐことが検討されている。事業化の具体的なモデルについては、抗体作成事業や理化学研究所ベンチャーも検討されており、データベースの公開も検討している。パートナー会社とのビジネスプラン作りが大詰めになってきている。